

SHIRAKOBATO

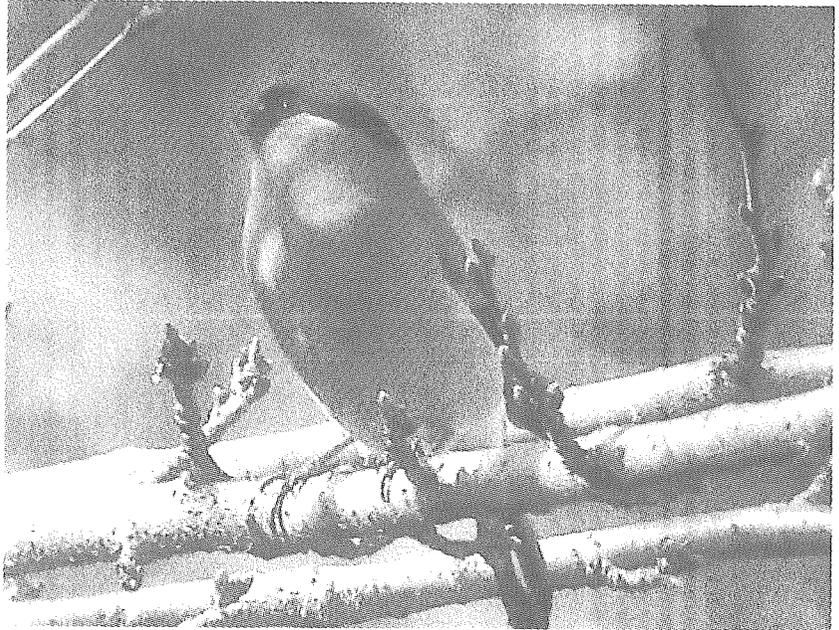
しらこぼと



1999. 5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 181

日本野鳥の会埼玉県支部

出張 de バードウォッチング I

引田 祢津人 (春日部市)

鳥見を趣味にするようになって、旅行といえれば必ず双眼鏡をカバンに忍ばせるようになった。当然、会社の出張も同様で、上手に時間を捻出して、知らない地でのバードウォッチングを楽しんでいる。

そのことを、支部の会合後の懇親会で編集部にうっかり喋ってしまった。忘れた頃に電話が入り「特集記事を書いてくれ」。活字にするのは拙いからと一度は断ったが、編集部の粘り勝ちで書くハメになってしまった。で、誰かを引きずり込もうと、大宮のSさんをこれまた電話で説得？し「実践編」を書いてもらうことにした(目白さんも引きずりこみました。編集部)。

「出張 de バードウォッチング」には、3つの大きな要素がある。第一に時間をどう捻出するか。第二に計画と探鳥情報の収集。最後に持ち運ぶ機材の選定である。

●時間をつくる

出張は、業務の内容と出張先までの距離によって、日帰りから数日にわたる宿泊が伴うモノまでである。また、週の中日に帰着するか週末が懸かるかによっても時間の作り方が違って来る。図1に出張の状況別による探鳥コースの選定フローを挙げるので参照されたい。

「あきらめコース」は、日帰り出張等で時間の捻出が難しいとき、とりあえず基本ギア(後述)だけ持参して、スキあらばバードウ

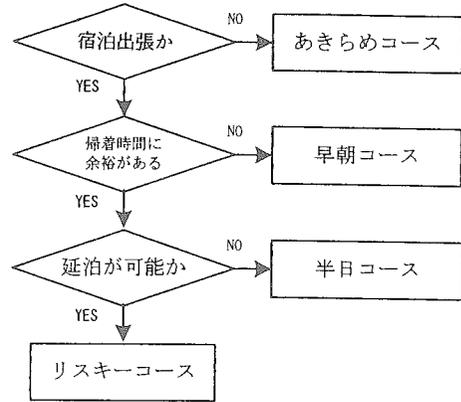


図1 状況別コース選定フロー

ォッチングを楽しむコトにするコース。

しかし、私が住む春日部から茨城県・栃木県方面へ行くような場合は、車を使用することで様相は一変する。私はこれで酒沼のハイイロペリカンをゲットした。

「早朝コース」は、宿泊出張で簡単に実現できる。ポイントは宿泊するホテルを探鳥地の近くに選ぶこと。そして、探鳥地の入場時間制限を前もって調べておくこと。

金沢の兼六園や金沢城址公園は朝7時から入場できるが、9時、10時からという所もあるので要注意だ。

「半日コース」は、出張の最終日、午前中で仕事が終わって午後は帰着のみという場合に予定を3~4時間延ばす方法。ただし、家に着く時間が深夜になる欠点がある。この場合のポイントは、交通手段の選定にある。

交通の便の悪い都市では迷わずレンタカーを利用する。金沢ではお昼に駅前でレンタカーを借りて、河北潟と野鳥の森の2カ所をじっくり見て回り、夕方6時の特急に楽々間に合う。

福岡では私鉄の利用で和白干潟で探鳥を楽しみ、折り返して地下鉄で空港に行ける。

札幌では、空港からタクシーでウトナイ湖のネイチャーセンターに行く。真冬でも吹



雪いていない限り、2時間程度寄り道を
する。

最後に「リスキーコース」。週末にかかる出張や有給休暇を利用して延泊を図る。会社にばれると拙いことになるので「リスキーコース」と名付けた。このコースはほとんど探鳥旅行と変わらないが、装備やウエアを取り替えたい。前もって、装備一式を宅配便の配達指定で宿泊先に送っておく。配達指定を忘れると、到着したホテルから会社に問い合わせがあり、誤魔化するのに苦労することになる。

札幌出張を週末2泊延泊し6月の天売・焼尻島に行った。夕暮れに帰巢するウトウの大群やノゴマなど、埼玉では見ることでできない鳥を堪能した。しかし、中日に低気圧のせいで船が欠航になり、リスキーコースの恐怖も味わった。

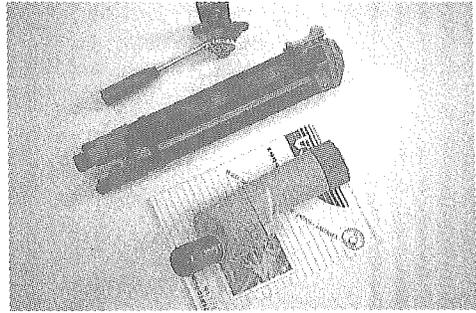
●探鳥計画と探鳥地情報の収集

「出張deバードウォッチング」では、出張地の情報収集が成否の鍵になる。特に、交通の手段や時間の配分、帰着の時間など綿密な計画が必要だ。

まず、捻出できる時間から、日本野鳥の会の『日本の探鳥地』や『バーダー』誌で探鳥地を選ぶ。最近はインターネットでも各地の探鳥情報が充実されてきたし、メーリングリストで出張地に住むバーダーの生の声を聞くことができるので使用頻度が上がった。

帰着時間や交通手段の選定には「時刻表」で基本の予定表を作る。バスの時間など時刻表で分からない場合はあらかじめ問い合わせるのもよい。最近はインターネットに時刻表を載せる交通機関も増えてきている。

そのほか、私は探鳥地の2万5千分の1地形図を購入し持参する。本の探鳥地案内では周りの様子が分からないが、地形図を持っていれば突発事態が起こっても迷わなくて済むし、気づいたことを記入しておくとの後の整理にも役立つのだ。また、インターネットで観光案内や必要な情報もプリントアウトして持参している。



●出張deバードウォッチング・ギア

写真(P2)にある基本3点セットの双眼鏡・フィールドノート・図鑑の内、双眼鏡は目的により、普通の双眼鏡かコンパクト型を使い分けている。コンパクト型はMINOLTA製UC II型6×16、サイズは縮小時88mm×73mm×22mm、120gと軽量である。

オプションとして(P3)、フィールドスコープと三脚がある。スコープは小型軽量の最右翼?コーワTS501傾斜型ズーム接眼レンズを使用している。傾斜型を選んだのは三脚が短くて済むためである。三脚はLPL製L1232を使用。これも1010gと軽量で、雲台が外せて、最短295mmになる。

これからは大宮のS氏のように、Canonの手振れ防止双眼鏡を1つ持っていくのが、「出張deバードウォッチング」の主流になるろう。

このように、「出張deバードウォッチング」を理論面から掘り下げてみたが、鳥を見たいという強い意志がないと上手くいかないように思う(最近飲み疲れで早朝コースは断念することが多い事反省)。また、情報収集で仕事をやっていないような印象を受けるが、ほとんどの作業はインターネットを使い自宅でやっている。会社では(仕事の)出張計画書を真面目に作成しており、時刻表を余分なページも合わせてコピーするくらいである。念のため。

それからもう一つ、あくまで会社業務の延長上の「出張deバードウォッチング」なのだ。計画は無理なく、目的の鳥がいなくてもケセラセラ。くれぐれも離島行きの計画はなさらないようにご忠告申し上げます。

出張d eバードウォッチングⅡ

里山4号(大宮市)

春日部のH氏から電話。「出張d eバードウォッチングという題で『しらこぼと』の原稿を頼まれているんですよ。おたくも身に覚えがあるでしょう。書きませんか?」

むむむっ…。バレていたか? いや、自分であちこち言いふらしていたかも知れぬ。白状します。やっています「出張d eバードウォッチング」。

出張に行く時は、必ず双眼鏡をカバンの中に潜ませておきます。初めのうちは遠慮がちに7×20のコンパクトな双眼鏡だったのですが、最近はこちらにあき足らず10×30の手振れ防止機能付きを持ち歩いています。

もし出張先が、まだ見ぬ鳥の出現しそうな土地だったりすると、色々手を尽くして情報を仕入れます。私のとっておきの情報収集法は、パソコン通信(ニフティサーブの野鳥フォーラム:FBIRD)です。ここには全国の野鳥好きが集まっていて、最新の野鳥情報を知ることができます。同じような思いの鳥見人は多いようで、「出張で何処何処へ行くのですが情報下さい」てな書き込みが時々あります。

さて、如何に情報を集めても相手は野鳥。仕事の合間の限られた時間ではなかなか目的の野鳥に出会えることはありません。しかしそれでもよいのです。普通なら仕事をしているはずの平日のぼっかり空いた時間帯に、ちょっぴり後ろめたい気持ちを引きずりながら、それでいてとっても得をしたような気分で、見知らぬ土地でのバードウォッチング。晴れ晴れとした週末の探鳥会とは違った、妙な喜びがあるのです。止められませんな～。

ここで釈明。仕事はきっちりやっています。仕事後のビールの美味さと探鳥への期待を励みに、他人より効率よく仕事をこなしているんですよ。ねえHさんそうでしょ。賛同して下さいよ。

NHK『野鳥百景』シラコバト編が、平成11年5月6日、午前4時49分～4時59分NHK総合で再放送の予定です。

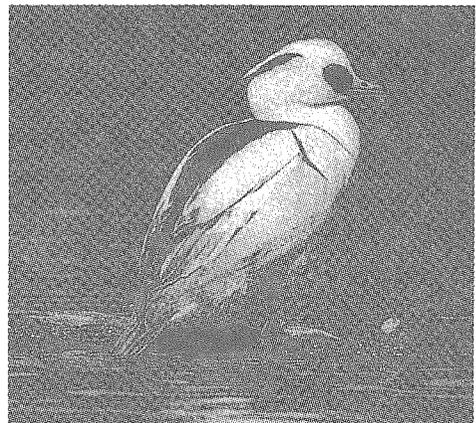
出張d eバードウォッチングⅢ

目白ドーベル(神奈川県)

出張先に観察用具一式すっかり用意され、「明日の朝、仕事前に見に行きませんか? お好きなんでしょ」なんてことには、ならないものですね。“釣りバカ日誌”じゃあるまいし……と思いきや、実はあったのです。出張者のための探鳥会! 珍しい企画だと思いますので、参考までにご紹介しましょう。

1997年の9月末(ちょうど渡りの季節)、金沢市で、日本生化学会第70回大会が4日間にわたって開催されました。全国各地の研究機関、大学、企業などから数千人が参加する巨大な学会ですが、この時のレクリエーション企画として、野球や囲碁の会などと共に探鳥会が行われました。世話役として準備をすすめ、当日のメインリーダーも務められたのはK大学のN先生。サポートは日本野鳥の会石川県支部のメンバーでした。

探鳥会が開かれたのは大会第3日目早朝。集合場所が金沢市の中心部だったので、最初は都市部の公園などで身近な鳥を見ろといったミニ探鳥会を予想していました。ところが集合場所で待っていたのは大型バス。約20名の参加者をのせると、霧雨にけむる古都を後に、海に向かって走り出しました。ミニ探鳥会どころではなさそうです。やがて、バスは普正寺県民の森に到着。ここの職員の方や石川県支部の方数名が出迎えてくれました。この探鳥会のため特別に、通常よりもずっと早

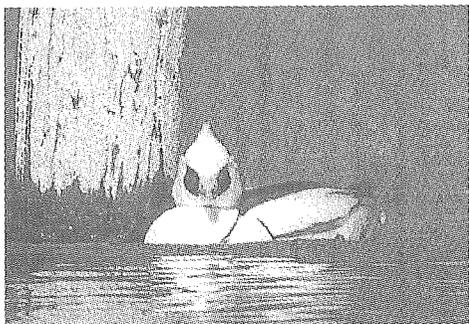


ミコアイサ(小川寿一、P5も)

い時間に開園したそうです。準備のない人には双眼鏡も貸してくれました。

雨上がりの空の下、探鳥会スタート。リーダーはN先生と石川県支部の皆さん。参加者は、ほとんどがベテラン風で、ビギナーはいないようでした。本日のコースは森をひと回り、途中でちょっと日本海をのぞくというもの。開始早々にコサメビタキ、サメビタキ、エゾビタキと3種立て続けに登場したのは、この季節、この場所ならではのことでしょう。年によってはシマゴマも現れるとか。残念ながら、この時はお目にかかれませんでした。他にはアカモズ、コシアカツバメなど、ちょっと地味ながらも渡りの季節らしい内容でした。印象に残ったのは、探鳥会の間、仕事がらみの話をする人がほとんどいなかったこと。同じ学会の参加者同士だから、何を研究ですか？ といった会話は当然あると思っていたのですが……鳥の話しか出なかったというのは、何か小気味いいくらいでした。約2時間の中身の濃い探鳥会にすっかり満足し、いい気分で学会の会場に向かいました。

さて、出張者のための探鳥会、いろいろな職場で、もっと頻繁に行われるようになればいいですね。不慣れな土地で、限られた時間に効率よく鳥を見るには、やはり案内人が必要です。特に女性の場合、一人歩きは不安ですし、こういう会は本当にうれしいもの。職場付近をフィールドにしている方、あなたの職場に、鳥好きな人が出張して来ることがあったら、何か企画されては？ 何も探鳥会ヤルゾ！ と身構える必要はありません。仕事の合間に時間を作り、フィールドを案内してあげるだけでも、喜ばれると思います。



カワウの関東地区集会報告

幹事 橋口長和

かねてより日本野鳥の会関東ブロック協議会で提案されていたカワウ問題への取り組みの一環として、日本野鳥の会研究センターの主催で「カワウの関東地区集会」が2月21日(日) WINGで開催されました。

カワウの研究者である福田道雄氏(東京都葛西水族園)、亀田佳代子氏(滋賀県立琵琶湖博物館)、石田朗氏(愛知県林業センター)、松沢友紀氏(東京大学大学院)や、各地でカワウの調査をしている11名の方をはじめ、関東ブロック各支部、研究センターから総勢29名の参加がありました。

最初に関東地区のカワウの動向について、神奈川県と群馬県でカワウの食害調査捕獲が銃猟で始まったことが報告されました。

長駆参加された岐阜県支部からは、県の要請で「カワウ」をテーマとした鳥獣保護担当研修会が実施され、支部長が「カワウの生態」について講演の後、「カワウの有害鳥獣駆除の在り方について」質疑応答や検討会があったことが報告されました。

また、研究者からは、琵琶湖や愛知県におけるカワウ駆除の実態やカワウの食害について詳しい話があり、特に印象に残ったこととして、琵琶湖では年間4000羽以上が駆除されているが個体数はあまり変化していない。その原因として駆除されているのはほとんどが幼鳥や若鳥であり、成鳥は捕獲しにくいらしい。そして、幼鳥などは駆除をしなくとも自然淘汰でそのくらいの数は死んでしまうからのことでした。

また、食害について、冬場に集中するのは、沿岸でカワウが潜って採餌出来る範囲に魚が居なくなる時期と合致し、餌不足が内陸部進出の原因らしい。そして、カワウ1羽当たりの1日の採餌量は400~500g程度(アユにして3~4匹)とのことでした。

その後、ディスカッションが行われ、予定を1時間オーバーして盛会のうちに終了しました。

今さら聞けない質問コーナー

Q：昨秋入会して双眼鏡で鳥を見る面白さを知ったばかりです。「渡り鳥」とは「遠く離れた越冬地と繁殖地との間を、年に1回定期的に往復する鳥」となっていますが、「遠く離れた」とは、どのくらいの距離をいうのでしょうか。冬になると山から里に下りてくる鳥は、渡り鳥とは言わないのですか。

(浦和市・山口綾子)

A：わかっているようで、結構むずかしいご質問です。

渡り鳥の説明の中の「遠く離れた」に、特定の距離による定義はないと思います。少なくとも隣の林から向うの林に「定期的に移動する」というものではないことは間違いないでしょうが。

一方、「漂鳥(ひょうちょう)」という言葉もあります。ご質問にある「冬になると山から里に下りてくる鳥」のように、日本国内など比較的狭い地域で、繁殖地と越冬地の間を年に1回定期的に移動する鳥のことです。

理論的に言うと、漂鳥も渡り鳥に含まれるのですが、感覚的には、海を越えて国外まで移動するものを「渡り鳥」、国内だけで移動するものを「漂鳥」と呼んだ方がびったりするようです。

渡り鳥の中で、春に南の方から渡ってきて夏の間国内で繁殖する鳥を「夏鳥」、秋になると北の方から渡ってきて冬を国内で過ごす鳥を「冬鳥」と呼びます。

春と秋の渡りの途中にだけ立ち寄り、国内では繁殖も越冬もしない鳥を「旅鳥(たびどり)」と呼ぶこともあります。この辺は実際上大分幅があり、例えばノビタキのように、国内で繁殖していても、埼玉県内の草原では、渡り途中に立ち寄るだけの旅鳥と感じられるものもあります。

「留鳥(りゅうちょう)」は、同一地域に一年中生息し、季節的に移動しない鳥のことですが、例えばヒヨドリのように、一年中身近にいても群れて渡りをするのが知られて

いるものもいますし、ダイサギも一年中いますが、夏にいるものと冬にいるものは亜種が入れ替わっています。

単純に言い切れないところが面白いと思いませんか。(編集部・海老原)

●コーナーへのご意見ありがとうございます

3月号のこのコーナーについて、「脊索動物門ではなく脊椎動物門が正しいのではないか、何を典拠にしたのか」というお葉書を開口直良さんからいただきました。

これは「世界鳥類事典」(クリストファー・M.ペリンズ監修、山岸哲日本語版監修、1992年、同朋社出版)の総説を参考にしたものです。私自身高校や大学教養課程では“脊索”と習った覚えがありますが、特にこの言葉にこだわっているわけではありません。現在では“脊椎”が主流なのでしょうか?(編集部・小林)

野鳥を題材にした短歌

(若林正徳)

定年の朝出勤の道に聴く

雀はいつも鳴いていたのか

スコープの視野にあふれる

芝川の岸辺の緑

カワセミの碧

オオタカの軽やかに舞う初空の

雲ひとつつき蒼すさまじく

紅梅の咲き初めし庭

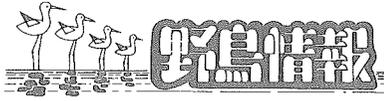
しらじらと初雪淡し

ウグイスの息

1999年夏「鳥の目から環境を調べよう！」

研究部

5月10日から7月10日まで自宅から半径50m以内で観察された鳥を、6月号に同封する調査はがきで回答頂く調査を行います。環境と鳥の関係を見る調査ですので、ドバト、セキセイインコなど、かご抜けの鳥もご記入下さい。よろしくお願い致します。



嵐山町都幾川 ◇2月11日、二瀬橋～八幡橋間でイカルチドリ5～6羽、クサシギ1羽、バン1羽、カワセミ4～5羽、タヒバリ2羽、アカハラ1羽、アカゲラ♀1羽、カシラダカ約20羽(後藤康夫・喜久子)。
東松山市都幾川 ◇2月14日、稲荷橋周辺でハイタカ1羽、タヒバリ3羽、イカルチドリ3羽、カシラダカ約80羽、アオジ約20羽、シメ約40羽、ツグミ約40羽、カオグロガビチョウのさえざり(後藤康夫・喜久子)。
寄居町円良田湖 ◇2月20日、円良田湖からカワセミ1羽、カイツブリ6羽。円良田湖から寄居トンボ公園へ行く途中、ヤブの中でウズラ4～5羽がゴソゴソしていた。寄居トンボ公園でトラツグミ2羽、シロハラ3羽(後藤康夫・喜久子)。
寄居町鐘撞堂山 ◇2月20日ベニマシコ♂1羽、ルリビタキ成鳥♂1羽♀1羽、クロジ♂1羽♀3羽、メジロ、シジュウカラ、コゲラの混群(後藤康夫・喜久子)。
戸田市道満彩湖 ◇3月2日、西側の草原でウグイスの初音を聞いた。3月13日、釣り堀横の林でヒレンジャク1羽。3月16日、同地で2羽。3月26日、ヨシガモ♂4羽♀2羽、ハジロカイツブリ1羽(倉林宗太郎)。◇3月13日、クイナ、バン各1羽、ツリスガラ約15羽。ヒレンジャク1羽、キツタの実を採餌していた。警戒心もあまりなく4～5m先の枝にまで来て1～2分休息。ベニマシコ♂2羽♀4羽、まだ残っているセイタカアワダチソウの実を盛んに採餌。チョウゲンボウ♂2羽、それぞれ別の枯れ木にとまっていた。シベリアジュリン♂2羽♀数羽、♂は黒頭巾をかぶったような夏羽になっていた(後藤康夫・喜久子)。

◇3月24日、シマアジ1羽(手塚正義、馬場友里恵)。

岩槻市岩槻文化公園 ◇3月2日、ベニマシコ♂♀各1羽。北帰行の途中か。しばらくの間休んだ後、北に向かって飛び立っていた(中村榮男)。

坂戸市城山 ◇3月3日、桜並木でウソ♂7羽、内アカウソ3羽。盛んに新芽をついばんでいた。久しぶりにやって来た。腹まで赤いアカウソはいつまで見てもあきない。感激!(増尾隆・節子)。

北本自然観察公園 ◇3月3日、東屋近くでミソサザイ1羽、はじめウグイスかと思っただが、開けた所に平気で出てきて確認。「チャチャ、チャチャ」と2連音で鳴いていた。ベニマシコ♂2羽(アカのきれいな個体と若鳥)♀1羽(鈴木紀雄)。

浦和市秋ヶ瀬 ◇3月3日、ピクニックの森でアリスイ1羽、ミヤマホオジロ♀1羽(鈴木紀雄)。

加須市南大桑 ◇3月4日、ウグイスの初鳴き(石井絢子)。

蓮田市黒浜沼 ◇3月5日、北側のアシ原で「クェクェッ」という声が聞こえるので行ってみると、アシ原からアリスイが飛び出して灌木にとまる。それをプロミナーで観察しながら、ふと上空を見上げたら、西から東へミサゴが通過。顔の白と茶の帯がよく見えた(鈴木紀雄)。

与野市南小学校 ◇3月10日午前8時20分、ベニマシコ1羽。桜の枝にとまって鳴いていた(石井智)。

〔編集部注〕この「野鳥情報」のページには、会員から寄せられた情報を、特に相反するデータがない限りそのまま掲載します。支部の公式情報ではありません。

表紙の写真

ウソ(スズメ目アトリ科、亜種アカウソ)

3月5日にも、自宅近くの城山の桜並木でアカウソが桜の新芽をついばんでいて、ビデオで撮影しました。

胸から腹にかけてほんのりと淡い紅色が、白黒の印刷ではわからなくなってしまうのが残念です。 増尾 隆(坂戸市)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日（水・祝）

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:34→南浦和8:37→南船橋9:26着。

担当：杉本、佐久間、手塚、長谷部、伊藤、篠原（東）

見どころ：夏羽になったシギ・チドリが繁殖地へ向かう途中、谷津干潟に立ち寄ってきます。ゴールデンウィークは干潟が一年のうちで一番華やかになる季節です。識別は難しいけれども楽しめますよ！

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月7日（金）夜行～9日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：5月8日（土）～9日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月9日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中島（康）、中村（榮）、田中、松永

見どころ：風薫る5月。田植えの真盛りの中を、南から渡って来たムナグロ・キア

シギ・アマサギ、ほかにオオヨシキリ・セッカ等々の夏鳥たちを探します。特別な探鳥地に出かけなくとも身近なところで楽しい鳥見ができますよ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：大型連休で身体も財布もお疲れのことと思います。回復剤として大麻生の野鳥訪問はいかがですか。猛禽類の舞・・いいですね。カッコウの声・・効きますよ。財布の方は無理でしょうが、心身のリフレッシュは保証します。

神泉村・城峯公園探鳥会（要予約）

期日：5月15日（土）～16日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺
(周)、笠原、倉林、若林、岡部、兼
元、森、清水、前澤

見どころ：若葉の季節。見沼たんぼは田植え
の時季を迎えて、いろんな動物がたん
ぼにやってくる。カエルやゲンゴロウ
が泳いで、鳥たちの餌食となる。カッ
コウがいつやって来るのか待ち遠し
い。夜の散歩の時、アオバズクの声が
聞こえてくる。今年も見沼のどこの林
に来ているのだろうか。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：5月23日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:36発
に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井(幸)、
小野、中村(祐)、山本、久保田、上
野

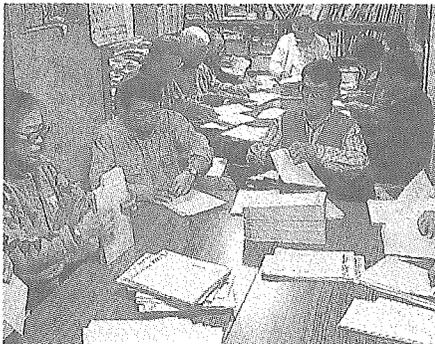
見どころ：5月から6月は鳥たちの繁殖時期
となる。そんな鳥たちを観察しよう。
夏羽に衣替えして飛び交う鳥たちや、
さまざまなさえずりを聴かせてくれる
鳥たちの中で、半日をゆったりと過ご
してみませんか。

『しらこぼと』袋つめの会

とき：5月28日(土) 1時~2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：風が気持ちよく、屋内にじっとして居
られないそんな季節ですね。でも半日
だけここのお手伝いを予定に入れて下
さいね。



長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月29日(土)~30日(日)

定員に達しましたので締め切りました。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：6月1日(火)

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミ
ナール前。

交通：往復とも貸切バスを利用

帰着：当日午後5時ごろを予定。

費用：4000円の予定(バス代、高速代、保険
料等)万一過不足の場合は当日精算。

定員：20名(県支部会員、初めての参加の方
優先)

申し込み：普通葉書に住所、氏名、年齢、電
話番号を明記の上、櫻庭 勇

まで。

担当：櫻庭、中村(榮)、藤掛、高(文)

見どころ：高く舞うイワツバメの群。ムシク
イ類やコマドリ・コルリの声。森の妖
精キビタキ・草原を飛び交うノビタ
キ・ホオアカを求めて、湯の湖から光
徳牧場まで約7kmを歩きます。お弁当
と雨具の用意も忘れずに。疲れぬ靴
でお出かけください。

茨城県・浮島湿原探鳥会(要予約)

期日：6月5日(土)

集合：午前7時45分、JR大宮駅西口。出発は
午前8時ごろ。詳細は別途参加者に通
知いたします。

交通：往復とも貸切バス利用

費用：5000円の予定(バス代、保険料等)万
一過不足の場合は当日精算。

定員：20名(先着順、支部会員優先)

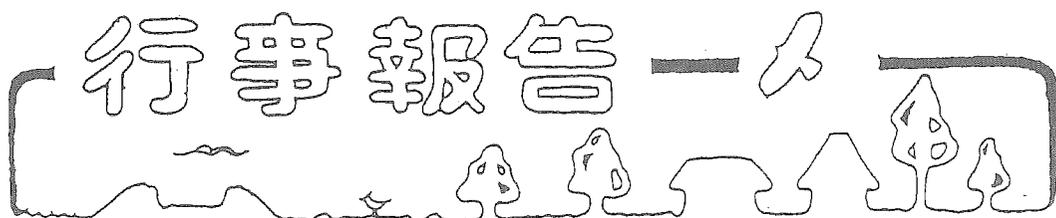
申し込み：普通葉書に住所、氏名、年齢、電
話番号を明記して、榎本秀和

まで。

担当：榎本、橋口、手塚、浅見(徹)、入山

見どころ：霞ヶ浦南端に広がる広大なアシ原
で、小鳥達の歌声に耳を傾けましょ
う。ヨシゴイの飛ぶ姿や、シギ・チド
リ類も楽しみです。

行事報告



1月17日(日) 浦和市 三室地区
参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ヒドリガモ ノスリ チョウゲンボウ バン タゲリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 昨年(の)の1月、2月は大雪、大雨で中止。今年は年のはじめとして、なんとか天気と心から待っていた。参加者の気持ちもそうだったのか、楽しい探鳥会だった。鳥も、ノスリ、チョウゲンボウ、セグロカモメ、カワセミ、ヒドリガモと大挙やってきたのだ。さあ、今年も頑張るぞ。(楠見邦博)

2月13日(土) 大宮市 大宮市民の森
参加: 46人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ バン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 前々日に降った雪がアチコチに残っていて、北風の冷たい日だった。しかし、季節は確実に移っていて、ロウバイが満開で良い香を放ち、ホトケノザ、オオイヌフグリも咲き始めていた。風が強くて、鳥は少なめだったが、カワセミ、ジョウビタキ(♂♀)は全員でゆっくり見ることが出来た。(浅見 徹)

2月13~14日(土~日) 静岡県 伊豆高原
参加: 17人 天気: 晴

カイツブリ ウミウ ヒメウ カワウ コサギ マガモ カルガモ トビ ノスリ コジュケイ

ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ カモメ ウミネコ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ハギマシコ ウソ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 伊豆半島での初めての探鳥会で、どんな鳥が見られるか心配だったが、伊東野鳥愛好会の皆様のご協力で沢山の鳥が見られた。イソヒヨドリは海岸だけにいるものと思っていたら、山の中でも見られた。大室山の山頂では、ハギマシコの70羽の群れが見られた。温もりのあるペンションでの懇親会など楽しい探鳥会だった。(中島康夫)

2月14日(日) 深谷市 仙元山公園
参加: 33人 天気: 快晴

カワウ ダイサギ コサギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ、イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 風光る季節。瀧宮神社ではイカルが囀り、イラガの繭などをついばんでいた。唐沢川ではダイサギがドジョウを捕らえ「こんな川にドジョウがねえ。でも大丈夫なのかしら」と心配する参加者の声。さらに洗剤の泡が渦巻く水辺で餌をとるカワセミやタシギの姿を見た時は、都市に生きる生き物たちの姿に、複雑な気持ちながら感動さえ覚えた。仙元山ではルリビタキやトラツグミが出てくれ、最後の「野鳥ビンゴ」も盛り上がった。(小池一男)

2月14日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 24人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ
コハクチョウ マガモ コガモ オナガガモ
ホシハジロ トビ ノスリ ハヤブサ コジュケイ
キジ イカルチドリ キジバト カワセミ
アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
(40種) 大麻生駅を出発する前にここでは
珍しいイカルが出現。皆でじっくり観察。風が
強くて寒いが明戸堰に向けて元気に出発。土手
に上がると、シメも登場。イカルとの違いがよく
分る。いつもの林にアオゲラとアカゲラが現
われたが、あまり落ち着いてくれなかった。明
戸堰ではコハクチョウにお別れ。風が強くて
猛禽は期待できないと思っていたら、ノスリ
が止まっているのが見られ、鳥合わせの最
中にハヤブサも現われて、まずまず。
(森本國夫)

2月18日(木) 戸田市 彩湖

参加：47人 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ
ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ノスリ
チョウゲンボウ バン オオバン タシギ
ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト
カワセミ アリスイ ヒバリ ハクセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ
ウグイス メジロ ホオジロ コジュリン
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (42種) 暖かく無風の好天に
恵まれ、47人と多くの参加者だった。釣堀
わきの公園でアリスイが出現。全員でよく
観察。カモ類が少なかったが、小鳥たちが
多く、又、ノスリ、チョウゲンボウも飛び、
のんびりとした探鳥会だった。(櫻庭 勇)

2月21日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：66人 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ
コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ
ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ
トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ
コジュケイ キジバト アオゲラ
アカゲラ コゲラ ハクセキレイ

イ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ
ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ
ツグミ ウグイス キクイタダキ
エナガ ヤマガラ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (47種) ふれ合い広場では、
ルリビタキの雄があちこちの低木の枝で愛嬌
をふりまいた。歓声をあげながら、じっくり
観察。疎林地帯ではキクイタダキの頭頂も
見ることができた。山田大沼でトモエガモ、
オカヨシガモ、ミコアイサ♀、ヨシガモ
などの珍しいカモを見ていると大空にハヤ
ブサも出現した。(岡安征也)

2月21日(日) 浦和市 三室地区

参加：57人 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ
コサギ アオサギ マガモ カルガモ
コガモ オナガガモ オオタカ
コジュケイ キジ バン コチドリ
タゲリ イソシギ タシギ キジバト
カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
ツグミ シジュウカラ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン
カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (40種) この日は170
回目の探鳥会。よくやってきたものだと
参加者たちはしみじみと感じる。カワセ
ミは3ヵ月連続して出現。セキレイたち
も黄色、白、黒と3種。カモたちは少
なかったが、ひさしぶりにマガモが1羽
泳いでいた。新しい参加者も多かったが、
鳥の数も40種と大台に。1月に続いて
ハッピーな探鳥会。(楠見邦博)

2月27日(土) 東松山市 物見山

参加：34人 天気：晴

コサギ トビ オオタカ ノスリ
コジュケイ キジバト アカゲラ
コゲラ ビンズイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス キクイタダキ
エナガ ヤマガラ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ ウソ
シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス
(29種) 新リーダー・吉田時則さん・
林久美子さんのすがすがしいデビュー
挨拶でスタート。ビンズイの水浴び、
ウソの紅色の美しさ、キクイタダキ・
エナガの群れ、里山の風景、カラスに
モビングされるオオタカ、梅の蜜で
昼食のメジロなど観察。(藤掛保司)

連絡帳

●住所変更などは本部会員センターに

住所変更・退会などのご連絡が支部事務局に相次いでいますが、このページ下段の奥付内にもあるとおり、本部会員センター業務室の方に直接ご連絡をお願いします。

当支部の事務局に、有給の事務職員はいません。無給のボランティアが、本来の自分の仕事を続けながら、その合間に電話の応対や事務処理などを行っています。一方、本部事務局には、数十人規模の有給専門スタッフが働いています。そこで支部は、会員に関する情報は、すべて本部会員センターのコンピューターによる管理に任せて、『しらこぼと』を発送する際は、本部のコンピューターで宛て名ラベルを打ち出してもらうなど、事務量の軽減を図っているわけです。

したがって、住所変更などは、直接本部にご連絡いただいた方が、間違いも少ないし、便利なわけです。本部にご連絡いただければ、後日支部の方にも通知が届きます。

なお、支部のリーダー名簿にお名前のある方は(支部幹事も含めて)、本部に連絡すると同時に、支部事務局にもご連絡ください。

●会費額が変わるのは「普通会員」だけです
前月号本欄の「会員制度が変わります」の記載内容が少し正確さを欠いていました。

会費が500円値上げになるのは、従来「普通会員」と呼ばれた会員、つまり、支部報だけを購読していて『野鳥』誌は購読していない会員、新制度では「支部型会員」と呼ばれる会員だけです。

正会員(新制度では「総合会員」)、家族会員などは、会費の値上げはありません。

●会員の普及活動

2月27日(土)に開催された大宮市深作川付近のアーバンみらい東自治会主催の探鳥会は今年で3回目を迎え、中島康夫支部長、玉井正晴幹事、田中幸男リーダーの3名が指導に当たり、おなじみの顔をまじえた22人の参加者となごやかな時間を過ごしました。

●色つきサシバが見つかるか

東京大学の樋口広芳教授(元本部研究センター所長)らは、サシバの渡りの追跡調査のため、今年3月に沖縄県石垣島で12羽のサシバを捕獲して、6羽に衛星追跡用送信機をつけ、12羽全部に色をつけました。

赤、黄、青、緑の染料で、翼下面、尾羽裏側、のど、下尾筒に着色し、個体により部位と色の組み合わせが違ってきます。

色つきサシバを見かけたら、日時・場所・どの部分に何色か・状況・観察者連絡先などを、ご連絡ください。

F113-8657 文京区弥生1-1-1 東大大学院農学生命科学研究科 野生動物学 森下英美子

e-mail:

TEL:

●5月の事務局 土曜と日曜の予定

15日(土) 編集会議、研究部会議。

16日(日) 役員会議。

22日(土) 校正作業。

29日(土) 袋づめの会。

●会員数は

4月1日現在3,087人です。

活動報告

3月14日(日) 役員会議(司会:浅見徹、福井恒人幹事が本年度の県鳥獣保護員に再任する件・その他)。

3月20日(土) 校正作業(大坂幸男・喜多峻次・工藤洋三・内藤義雄・藤掛保司)。

3月29日(月) 4月号を郵便局から発送(倉林宗太郎・藤掛保司)。

編集後記

3月に添乗の仕事で屋久島に行ってきました。大雨の影響であちこち道路が不通。屋久杉まで行けなかったのは残念ですが、トビウオのさつま揚げはうまかった!!

もう1ヵ所立ち寄ったのは、指宿。これが出水だったら、「仕事でeバードウォッチング」ができたんですけどね。(藤原)

『しらこぼと』1999年5月号(第181号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkooame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用